〈地域研究会通信―鹿児島〉

「研究会だより No5（1993年7月15日） 地域協同組合研究会（鹿児島）」
＜連絡先＞鹿児島大学教育学部:神田嘉延研究室TEL. 0992-54-7141

◇ベーク報告の指摘を県内協同組合に活かそう◇

昨年11月にスタートした地域協同組合研究会は、購買生協、大学生協、医療生協、農協、労働者協同組合と幅広い協同組合組織従事者と研究者が参加し、これまで7回の例会を重ね、ＩＣＡ東京大会の基調報告（ベーク報告）の検討を行なってきました。第7回例会（7月2日開催）では、これまでの研究会での論議のまとめを行ない、今後の進め方を明らかにしました。

◇これまでのまとめと課題◇

ベーク報告は、世界各国の様々な協同組合組織の歴史や実態をもとに、「人類の未来のための協同組合価値」をまとめ、「協同組合の運動の根本にすえるべき原則」の基本方向を提案する内容となっています。

当初の「なぜ、今ベーク報告の検討なのか？」（当研究会だよりNo１）の問題提起と照らせば、「協同組合の本質である民主主義・参加・主体形成」など多くの課題を検討する上での、いわば「協同組合論」のテキストとしてこの報告を使い、原理論を深めることができたというのが研究会参加者の認識です。しかし、ベーク報告の指摘が今後のそれぞれの協同組合組織と運動にどのように活かされていくかは、自らの協同組合の現実の問題認識から出発するものであり、この視点での検討が研究会に求められているとして、今後の検討課題を整理していくことになりました。

ＩＣＡ東京大会とベーク報告については、それぞれの協同組合組織で紹介され、いずれも「成功をおさめた」旨の論調が出されています。しかし、ＩＣＡ東京大会・ベーク報告を受けて、自分達の協同組合がどのように発展していくのか、どのような課題が明確になったのか等については、研究会参加者の中ではほとんど論議の経験がない（紹介を受けた程度）という実状が出されました。組合員の中では、機関紙に記事を掲載したところはあっても、これを受けた全体的な討議が組織されたという報告はありませんでした。

ベーク報告は、開催国である日本の協同組合の分析については「遠慮している」との指摘がなされているということも紹介されましたが、それならばなおさらベーク報告の指摘をそれぞれの協同組合の発展方向に活かしていくために、当初の問題提起にある「鹿児島の協同組合運動の現状認識はどうか。飛躍の中で新たな課題が突き付けられていないか」の検討・分析が必要になってきます。

研究会の例会では、それぞれの協同組合組織の現状や参加者の問題意識が討論・検討の素材として出し合われてきましたが、ベーク報告の検討を進める中での断片的な論議であったために、改めて各協同組合組織の現状と問題意識を研究会参加者でまとめてみることになり、そこから今後の研究会での検討課題を整理して新たな展開の糸口をつかんでいくことになりました。

これまで、今後の検討課題として出されていた事項については、ほぼ以下の点が共通のものとなっています。

①参加民主主義の到達状況と課題

②従業員参加と協同組合職員論

③社会（地域）の中での協同組合の役割り

◇次回：第8回例会：7月30日：生協関係から◇

【報告】萩尾さん（コープかごしま）、江夏さん（鹿児島大学生協）、竪山さん（鹿児島医療生協）

（※編集まとめ＝『協同の発見』編集部）

※編集部より＝各地域での研究会活動、実践活動の通信をお送り下さい。『協同の発見』誌上に掲載して交流をはかります。